

p. 22, 23	大単元名	2 はたらく人とわたしたちの くらし	小単元名	わたしたちの仙台市にはどんな 「作る仕事」があるのだろう
-----------	------	-----------------------	------	---------------------------------

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは、仙台市内で作られている工業製品や農作物が、主にどこで作られているのかを把握し、仙台市内で働く人の仕事の様子や仕事とわたしたちの生活とのつながりを考えることである。②A「わたしたちのくらしと工場の仕事」、②B「わたしたちのくらしと農家の仕事」の2小単元の導入となる学習である。

<北部>

写真「泉パークタウン工業・流通団地」
絵と関連させながら、泉区近辺
には、本や新聞、かまぼこなどを
作る工場があることに着目させる。

<東部>

写真「岩切地区の仙台曲がりねぎ畑」
地図記号や絵と関連させて、宮城
野区の港近辺には、かまぼこやビー
ルなどの工場が多いことに着目さ
せる。港や道路との関連にも気付か
せたい。
「曲がりねぎ」は、仙台白菜や仙
台雪菜などと並ぶ、伝統野菜の一
つ。

<西部>

地図記号や絵と関連させて稲作や
野菜作りが盛んであることに着目さ
せる。
新川には、ウィスキー工場がある。



<東部・南部>

地図記号や農作物の絵と関
連させて、農業が盛んであるこ
とに着目させる。

小単元名 p.24～27	① 選択A わたしたちのくらしと 農家の仕事	小単元 の目標	地域にみられる農家の仕事について、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図でまとめることで生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、工場の仕事は、人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
-----------------	------------------------------	------------	---

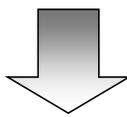
つかむ

p.24

◎ わたしたちの市でつくられる野菜

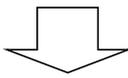
- ・学校給食等を活用して、地区で栽培されている農作物への関心を高める。
- ・「仙台曲がりねぎ」「仙台白菜」「仙台雪菜」などの伝統野菜を紹介する。
- ※仙台あおば餃子：仙台雪菜を皮に練り込んだもの

他にどのような野菜が作られているのかな？



おいしい野菜をつくるために、どんな工夫をしているのかな？

学習問題
農家ではどのようにして、おいしい野菜をつくっているのでしょうか。



調べる

p.25

◎ 農家を見学して調べてこよう

学校から近い農家を見学したり、農家の方を学校の畑に招いたりして、インタビューをさせる。

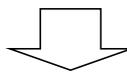
★農家の方にインタビューしたい内容など観点を事前に考えさせる（例）

- | | |
|-------------|--------------|
| ①作り方の工夫について | ②土づくりの工夫について |
| ③収穫について | ④農家の方の思いについて |

p.26,27

◎ 野菜作りの工夫を調べよう

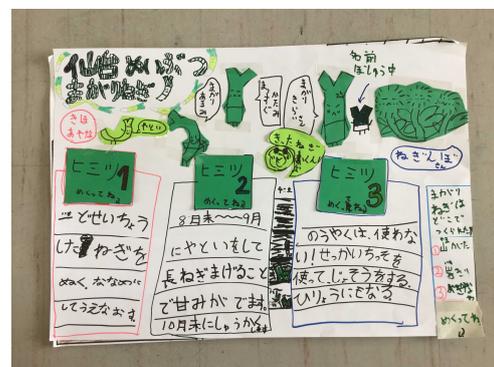
- ・農家の方へのインタビューを通して、さらに調べたくなったことを挙げさせ、調べていく。
- ・地区の生産物について調べる。
- ・曲がりねぎづくりカレンダーから農家の方が一年を通して野菜作りに携わっていることに気付かせ、時期毎の工夫について考えさせる。



まとめる

◎ 調べたことをまとめて発表しよう

- ・作成にあたっては、農家の見学や調べ学習で分かったことを生かしたり、写真を使ったりするよう指導する。
- ・お世話になった農家の方にも見ていただくなど、相手意識を持たせ、作成に取り組ませたい。
- ・地元の野菜を使った新しい特産物を考えるなど、児童の工夫を生かして活動をさせても良い。



○ 教科書では、福岡市のいちごづくりを取り上げている。題材は異なるが、見学の視点や工夫や努力の調べる視点、まとめ方については参考にするとうい。

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解することである。ここでは岩切地区を取り上げているが、学校から近い農家を見学し、その地区の生産物を調べるとよい。

写真「仙台伝統野菜」

仙台の気候や風土に適した野菜として古くから栽培されてきたもの。他にも、仙台芭蕉菜、仙台長なすなどがあり、児童の関心を高めるために取り上げたい。



本文「やとい」

岩切地区は、地下水位が高く、ねぎの栽培には不向きであった。しかし、このデメリットを逆手にとって生まれたのが「曲がりねぎ」である。先人の知恵と努力や、地域の農家の工夫を取り上げたい。

学習問題

作り方や土づくりの工夫など、次ページの観点とリンクさせて学習問題を設定するとよい。

図「仙台曲がりねぎづくりカレンダー」

一年間を通して野菜作りに携わっていることに気付かせ、その時期毎に力を入れている作業や工夫について理由も合わせて考えさせるとよい。



本文「調べたことをまとめて発表しよう」

農家の方の仕事が自分たちの生活を支えていることを確認しながら、まとめる活動をさせたい。

写真

1人1台端末を活用し、発表用スライドにまとめさせ、互いに見合うなどの活動も考えられる。

本文「調べた曲がりねぎ作りの工夫について」

曲がりねぎ作りには様々な工夫があることに気付かせたり、他の野菜においても同様の視点で見ることによって様々な工夫に気付かせたりしたい。

本文「農家の方の話」

ここでは販売の工夫について話している。消費者のことを考えて販売の方法を工夫していることを読み取らせる。

小単元名 p.28～33	①選択B わたしたちのくらしと 工場の仕事	小単元 の目標	地域にみられる工場の仕事について、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図でまとめることで生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、工場の仕事は、人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
-----------------	--	------------	---

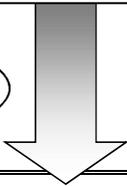
つ
か
む

p.28

◎ ささかまぼこについて調べてみよう

- ・ 仙台の特産物であるささかまぼこの種類などについて取り上げ、関心を高める。
- ・ グラフを活用して、宮城県はささかまぼこが有名であることを知る。

ささかまぼこは何から作られているのだろう！



ささかまぼこを作っている様子を見てみたいな！

学習問題
工場では、どのようにしておいしいささかまぼこをつくっているのでしょうか。

調
べ
る

p.28～31

◎ ささかまぼこができるまでーかまぼこ工場

ワークシートを準備し、観点別に記入させてから見学させる。

*観点の例

- | | |
|---------------------|-------------------|
| <原料の工夫について知りたいこと> | <歴史について知りたいこと> |
| <つくり方の工夫について知りたいこと> | <販売、輸送について知りたいこと> |
| <働く人の工夫について知りたいこと> | |

*工場見学ができない場合は、蒲鉾店のwebページを活用することも可能である。

ま
と
め
る

p.32～33

◎ 調べたことをまとめて発表しよう

ささかまぼこについて、調べて分かったことをグループごとにまとめ、発表を聞き合っ
て意見を交流させる。

<グループでテーマを決めて、調べたことをもぞう紙にまとめてみよう>

- ・ ささかまぼこについて調べるテーマをグループで一つ決めさせる。
- ・ 児童一人一人がテーマに沿って調べ、絵や写真を交えながらカードにまとめさせる。
- ・ レイアウトなどを工夫しながら、グループごとにカードを模造紙に貼ってまとめさせる。
- ・ 模造紙を使ってグループごとに発表し、意見を交流させる。

◎ 学習問題に対する自分の考えをまとめよう

これまでの学習や、グループの発表を聞いて分かったことをもとに、学習問題に対す
る自分の考えをまとめさせる。

<学習問題について分かったことを、ノートに書いてみよう>

- ・ 原料やつくり方など、ノートにまとめてあることや、各グループの模造紙の内容などを手掛かりにして書かせる。

※「1年間に作られるかまぼこの量」は、平成23年の統計調査では宮城県は全国で1位の生産量でしたが、震災の影響で平成24年の統計調査では7位に落ち込みました。その後、原料となる魚の漁獲量の回復や、生産ラインの復旧などにより、令和元年度は全国5位の生産量となっています。

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは、生産の仕事が、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解することである。児童にとって身近なかまぼこを生産する仕事を取り上げ、原料や作り方、製品の流通、他地域とのかかわりなどを調べ、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉えることができるようにする。

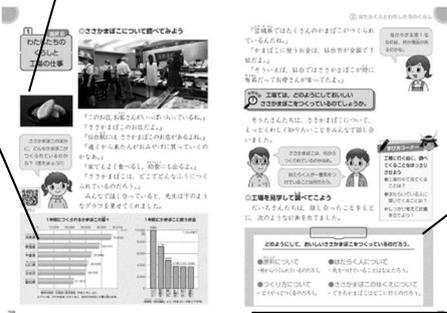
グラフ「1年間に作られるかまぼこの量」

生産量を実感として捉えさせるためのグラフである。仙台市の贈答品では、ささかまぼこが主力商品になっている。各家庭での消費より、おみやげなど贈答品としての利用が多いことを補足説明する。1年間に作られるかまぼこの量※



写真「ささかまぼこ」

仙台の特産物であるささかまぼこを導入で取り上げ、興味・関心を高めたい。



*情報コーナー

阿部笹蒲鉾工場 022-222-6455
鐘崎笹蒲鉾工場 022-231-5241

図「ささかまぼこについて調べてくること」

観点を絞って、調べることを具体的に考えさせるとよい。

参考資料「1年間につくられるかまぼこの量」(2011年同調査より)

東日本大震災により多くの蒲鉾工場が被災したため、2011年までは生産量第1位であった宮城県が、2020年では第5位に下がっていることを補足する。その際、左のグラフを活用するとよい。

本文「原料について」

すけとうだらは、北洋の船上ですりみに加工される。ひらめは養殖ひらめを使用し、コストを抑える企業努力をしている。このほかに、真鯛もオーストラリアから空輸されて使われる。



本文・写真「工場で働く人の様子」

「一番気を付けていること」が衛生面なのはなぜか考えさせたい。写真やイラストの工夫のほかに、温度や湿度の管理、消毒、換気、製品チェックなど様々な配慮がされている。

図「ささかまぼこができるまで」

手作業で行われる作業と機械で行われる作業があることに気付かせたい。※すり身の状態で仕入れることが多く、身おろしは工場ほとんど行われていない。

※情報コーナー

阿部笹蒲鉾店 <http://www.abekama.co.jp>

本文・イラスト・吹き出し

かまぼこを作るためには工場に働いている人だけでなく、様々な人々関わっていることを掴ませる。また、他の市や町から通勤している人々に触れ、他市町との関わりに気付かせる。

写真「販売している場所」

どんなところで販売しているのか、写真を通して考えさせるとともに、立地条件についても話し合わせると良い。

(左から、国道沿いの店舗、仙台空港の店舗)



写真「個人で調べたことをまとめたカード」

グループで設定したテーマに沿って、児童一人一人が調べたことをカードにまとめさせる。

絵や写真などを交えながら、分かりやすくまとめさせたい。



写真「模造紙を使った発表」

模造紙を使ってグループごとに発表させ、気付いたことや感想を話し合わせる。

1人1台端末を活用したまとめも考えられる。

友達の考えと交流することで、多様な考えに気が付かせる。

写真「学習問題についてまとめたノート記述」

学習問題は授業の際、常に児童の目に触れる場所に掲示し、課題意識を持って学習に取り組ませるようにする。単元の終末として、これまでの学習や、グループの発表を聞いて分かったことをもとに、学習問題に対する自分の考えをまとめさせる。

1人1台端末を活用して、まとめた内容を交流させることも考えられる。

小単元名 p.34～43	② 店ではたらく人	小単元 の目標	地域に見られる販売の仕事について、消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図にまとめることで販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現することを通して、販売の仕事は消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
-----------------	-----------	------------	--

つ
か
む

p.34～35
◎ **買い物調べをしよう。**
○ 買い物について振り返り、紹介し合う。
・日頃どんな店を利用しているか、紹介する。
コンビニエンスストア、スーパーマーケット、商店 など
・どこにどんな店があるか地図上で確かめる。
学区内、仙台市中心部、郊外
○ 買い物調べの結果をまとめ、分かったことを話し合う。

調べを表やグラフにすると分
すいね！

買い物をする人はいろいろある店をど
のように使い分けているのだろうか？

学習問題
スーパーマーケットにたくさんのお客さんが集まるのはなぜでしょうか。

調
べ
る

p.36～39
◎ **スーパーマーケットの見学**
・スーパーマーケットにたくさんのお客
さんが集まる秘密を調べて、見学カー
ドに記入する。
(働く人、表示、商品、設備)
・店員さんにインタビューする。
(工夫、気を付けていること、願い)
・見学カードやインタビューの仕方を
指導する。

p.41
◎ **調べたことをまとめて発表し
よう**
・見学して見付けたスーパーマーケットの
工夫をまとめる。
(新聞、紙芝居、ポスター、ICT活用)

ま
と
め
る

p.40
◎ **まちの人々とともに**
・スーパーマーケットが行っている
工夫を紹介し合い、工夫について
考える。

p.42～43
◎ **いろいろな店と
これからの買い物**
・買い物で気を付けること
・買い物をするときの店の選び方



- 教科書、副読本の両方の事例を取り上げることで、自分たちの地域のいろいろな店との類似点、相違点を見付けることができる。
- 「まなび方コーナー」の「しつもんのかた」「予想する」「品物の産地調べ」などを活用し、学習技能を習得する機会とする。

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは、販売の仕事と自分の生活との関わり、販売の仕事の特色と他地域との関わりなどを調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考え、表現し理解することである。地域の人々の生活を理解する上で欠かせない視点の一つは、生産と消費である。児童にとって身近な消費活動の様子を取り上げながら学習を進めていくとよい。

本文・写真「買い物調べをしよう」
 事前に、家庭での「買い物調べ」や取材活動を行わせたい。
 また、写真を取り上げ、買い物への興味・関心を高めたい。

図「白地図と商店の写真」
 まち探検の際、それぞれの地域にある商店の写真撮影して授業で提示するなど、実感を持って見学活動に臨むことができるようにする。
 また、まち探検で作成した地図上に店の場所を示し、学校との位置関係、住宅地や通りとの関係などにも着目させる。

図「買い物調べ」
 家の人にインタビューをして、最近1週間で買い物をしたお店を書き込みます。また、その店に行く理由についても具体的に書かせるようにする。ここに書かれていることが、消費者の願いとつながることがある。

家の人買い物がいった店を、クラスでまとめる学習をする。地域によって違いが出ると思われるが、スーパーマーケットも1件とは限らないし、最近は通信販売を利用することも考えられる。それぞれ、利用する理由があるはずなので確認し、消費者の願いにつなげたい。

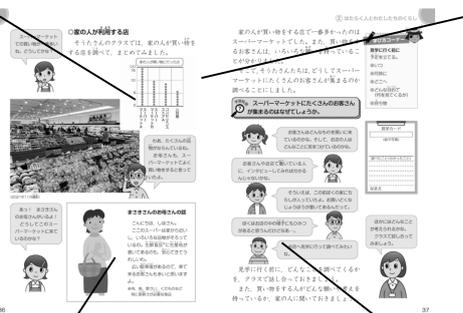


グラフ「買い物をする店調べ」
 各自が調べてきたことを学級でまとめるとよい。地域の買い物の様子が分かる。
 ●を使ってまとめることで、棒グラフの読み取りにもつなげていきたい。

「買い物に行った店」について
 地域によっては八百屋のような店舗がないこともあるので、地域の実態に合わせたグラフを作成することになる。最近は、インターネットで注文したり、自宅まで食材を配達してくれたりするサービスもあり、多様化している。

本文「まさきさんのお母さんの話」
 お母さんの話から、身近な人が「普段の買い物で気を付けていること」を読み取らせる。
 店の工夫についても気付かせていきたい。

キャラクターの吹き出し
「お店の人はどんなことに気をつけているのかな」
 見学を行う前に、「お客さんが集まるわけ」について「気を付けていること」「工夫していること」などの視点を与え、予想を立てさせる。見学に向けて、意欲付けを図ることが大切である。



写真「スーパーマーケット」

ここでは、見学活動を取り入れ、学習活動を工夫したい。

見学に際し、前もって店に見学の観点を知らせ、見学内容、経路等を決めておく。



本文「店長さんの話」

買う側の「お母さんの話」に対し、売る側の「お店で働く人」にインタビューし、店の工夫について調べさせる。

可能であれば買い物に来ている人にもインタビューをし、それぞれの工夫について比べさせたい。

キャラクターの吹き出し

キャラクターの発見や疑問が自分たちの見学のどの観点と結び付いているか考えさせる。

また、店の中だけでなく、普段は見られない店の裏側でも、多くの人たちが働いていることや様々な工夫があることに気付かせたい。

図「店内の様子」

見学の際には、商品の並べ方や配置の仕方に工夫があることに気付かせたい。あらかじめ見取り図などのワークシートを準備し、書き込ませるとよい。

写真「まちの人々とともに」

本文「店長さんの話」

スーパーマーケットやショッピングセンターなど多くの人たちが利用する店では、様々な人が利用しやすいよう工夫がなされていることに気付かせたい。

また、買う人の思いや考えが、店の工夫に生かされていることにも気付かせることが大切である。



写真「まとめて発表しよう」

これまで学習したことをグループごとにまとめて発表する。

学習内容に応じて、適切な発表方法を教師側が押さえておきたい。分かったことや考えたことが、分かりやすく表現できるように支援したい。

補助犬マーク

・盲導犬マークが介助犬等を含む補助犬マークに変わっている。

発表例

- ・デジタルテレビを使つての説明
- ・壁新聞にまとめた発表
- ・紙芝居での発表
- ・ペーパーサートでの発表
- ・1人1台端末を活用した発表も検討していく。

本文・写真 「いろいろな店とこれからの買い物」

地域によっては専門店のような商店を扱えない場合があるので、郊外の大型店や複合型商業施設、コンビニエンスストア等を取り上げることも考えられる。

また、児童の興味・関心や地域の実態を考慮しながら取扱いを検討する。

キャラクターの吹き出し

消費者として条件に合った店や購買方法を選ぶことが大切であることを考えさせる。



写真「知ってる？SDGs」

今回の学習で知った買い物における家庭の工夫や販売店の工夫から SDGs に結びつくものを考えさせることにより、単元全体の学習の振り返りにつなげる。また、SDGs という用語にふれることで次年度以降の社会科の学習や現代社会における課題に関心を持たせられるようにしたい。

リサイクルに関するマーク <グリーンマーク>

古紙再生利用の紙製品に付けられたもの。(財)古紙再生促進センターが、経済産業省指導の下、実施している。

<PET ボトルリサイクル推奨マーク>

PET ボトルリサイクル推進協議会で再商品化された商品にマーク使用を認可している。PET ボトルからのリサイクル商品であることを示している。

<エコマーク>

(財)日本環境協会が実施しているマーク。商品を消費または廃棄する際、環境に負荷が少なく環境保全に役立つと認められる商品に付いている。

<せんだいグリーン文具マーク>

仙台市が定める環境配慮基準を満たす文具に付けられたもの。仙台市のホームページでも紹介されている。